

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 思春期における悪と Erikson のライフサイクル論－悪の両 義性と5つの negative aspects との関係－	単著	2022年3月	HIU 健康科学ジャーナル, 1号, 57-68	思春期における、悪の両義性・拮抗性・両極性を把握する理論的枠組みとして、Erikson のライフサイクル論の検討を行った。負の側面には、①非同調的性向(不信)、②不適応の傾向(感覚的不適応)、③病理につながる要因(悪性傾向;閉じこもり)、④環境との負のつながり(偶像主義)、⑤前の段階の危機を解消することによる派生物(時間的拡散)が含まれる。その上で、5つの負の側面を思春期における悪(不登校、いじめ、学びからの逃走)と関連づけて考察した。
2 (学術論文) 発達のモラルレジリエンスモデルにおける成長のとらえ方－心的外傷後成長 PTG との比較－	単著	2023年3月	HIU 健康科学ジャーナル, 2号 31-43	発達のモラルレジリエンス(DMR)モデルの発展を目的とした。DMR は悪に対して、備え、抵抗し、影響から回復する弾力性からなる。心的外傷体験をきっかけとした成長に焦点をあてた心的外傷後成長(PTG)に関する理論と知見を参照することにより、DMR の過程を検討した。その結果、DMR における出来事以前、出来事、過程(反芻、自己開示・語り、ゆるし・スピリチュアリティ)、影響要因、結果・帰結に関する知見と今後の検討課題を整理した。
3 (学術論文) 日本における悪への対応のための道徳的・倫理的枠組みの構成～文化相対主義と悪の両義性を考慮した道徳教育の提案	単著	2023年3月	『広島国際大学総合教育センター紀要』7号』, 39-59	日本文化における悪への対応(理解と対処)について、心理学における道徳研究と思想史(仏教の受容過程)を中心に、哲学、倫理学、社会学等多様な領域を参照にして、統合的に理解し、道徳教育の基礎となる枠組みを構成する試みを行った。
4 思春期における悪との接触に対する青年のとらえ直し(8)－規範からの逸脱の体験－	単著	2024年3月	HIU 健康科学ジャーナル, 3号, 39-49	思春期に接した悪に対する感情・評価・対応、その後(高校時代)と現在(大学時代)のとらえ直しについて分析を行った。「する」逸脱としては非行や校則違反が、「される」「見る」体験には注意する、関わらないようにする、自分はないなど、多様な対応がみられた。青年期では、ある基準と理由を持って悪が否定されるようになると同時に悪は誰にでも状況によっては生じえる、善悪判断は容易ではないという相対化も生じた。
5 現代日本社会における思春期とイニシエーション: 思春期における危機的環境移行の理解と対応	単著	2024年3月	『広島国際大学総合教育センター紀要』8号』, 39-57	現代日本社会における思春期の特徴と課題をイニシエーションと関連づけて考察したイニシエーションと通過儀礼に関する文化人類学や宗教学、分析心理学、民俗学の知見を概観した上で、心理療法とイニシエーションの関連性を整理し、思春期とイニシエーションの関連性について考察を行った。イニシエーションの観点から現代日本社会における思春期に対する理解と対応への示唆を得た。